

東京地方壮年連合通信 vol.87

TOKYO SOUNEN RENGOU TSUUSHIN 2020年12月12日

「連合の集い・神学校デイ」に参加して

日本バプテスト多摩みぎわキリスト教会 石井規之

11月23日、神学校デイを合わせて、毎年恒例の連合の集いが行われた。恒例ではあるがコロナ禍のために、Zoomを使つての集いという異例のかたちであった。品川教会と天城山荘を基地局とし、さらに開会礼拝メッセージは多摩川教会から、神学校のミッション・ステートメントの報告者やパネルディスカッションのパネリスト、プロジェクトの紹介、そして新任牧師紹介はそれぞれの教会からと多くの地点を結び付けての開催は初めての試みであった。多くの議論、調整、テストを重ねて特段の不都合なく開催することができたことは大きな喜びであるとともに、また、早く集まっていけるようにと思われた方も多かったのではないだろうか。



今回の中心テーマは、これからの神学校を考えるということだった。東京バプテスト神学校のミッション・ステートメント（策定中）の説明が三連合の代表からなされ、キリスト新聞社の松谷信司社長から「日本の神学校の現状と課題」とのテーマで発題を受け、パネルディスカッションが行われた。

筆者にとって印象的だったのは、“シェア”という言葉と“入り口も出口も広く”という言葉だった。スペース（建物、教室）のシェアと共に講師のシェアをしてはどうかという提案である。献身者も講師も少なく、神学校を支える費用はかかる、という現状を考えると、バプテストとしての教会史や教会運営方法等を大切に、独自に学びながら、他教派と学びを共有できる分野については講師を派遣しあってもいいのではないだろうか。また、教会のリーダー、献身者の育成と共に学びたい人は誰でも学べ、様々の奉仕に遣わされていくという考えは、今までの献身者、奉仕者養成という括弧の中に収められていた神学校の働きに新しい分野を拓くものだと感じられた。また、人数的に小さく奉仕者が足りず、教会員の成長支援に困難を憶える教会にとつ

ては、今までそれぞれの教会が担ってきた教えの働きを共有し、この分野でも協働するというを考えてもいいのではないかと思います。

交わりの時間では、神学校のこれからとともに協力伝道のあり方や with、after コロナ禍の中での教会活動などについて話し合われた。時間が足りなかったというお声もたくさんいただき、主の働きへの参加者の熱い思いに励まされた。今回の集いについては、アンケートを取らせて頂くことによってフィードバックさせて頂き、これからの連合の働きのヒントとなっていく。

「福音」は一つ「信仰」は多様

恵泉バプテスト教会 栢原 英郎

コロナ感染症の拡大の影響を受けて様々な会合が中止になっている。驚いたことは、時間的にも精神的にも思いもかけないほどの開放感が生まれたことだ。「忙しいという文字は心を亡ぼすと書く」とか、「学問、スコラとは暇ということ」とか言われるが、時間ができてみるとそのことが実によくわかる。読みさしの本に手が伸びたり、気になっていたことをあらためて考えたりしている。



その結果気づいたことの一つが、表題にした「福音」と「信仰」の違いである。

「福音」は、①私に命を与え、天地を創造された神の存在（創世記）、②その神がともにいてくださるという宣言（出エジプト記）、③神に背く私を救うためイエスを十字架にかけ復活させられた出来事（福音書）の三つから成り立っている。一方「信仰」は、この「福音」に触れた人間がどう応答するかということだろう。すると、福音は一つだが信仰は応答する人間の数だけあるということになる。聖書も「福音」とそれに触れた聖書記者の「信仰（告白）」から構成されている。自分の応答である「信仰」を「福音」であるかのように語るから「それは違うだろう」と議論になるが、信仰を私の信仰として語る限り、尊重されこそすれ異を唱えることはできない。

一昨年、私は大学の寮の仲間であった東海伝道所（現東海バプテスト教会）の諏訪正輝君を天国に送った。彼が生前語ってくれたことである。「私の教会には原子力技術者が何人もいます。原発事故現場で働いている人もいます。その人たちを考えると、連盟から送ってくる「原発反対」などというポスターを教会に貼ることはできません」

「原発反対」は一つの信仰であって福音ではない。「連盟」の名前で「原発反対」を叫ぶのは逸脱であろう。「自衛隊反対」を唱えるある牧師に尋ねたこ

とがある。「自衛隊員が教会の門をたたいたらどうするのですか?」。答えは「自衛隊を辞めていただきます」と、驚くほど単純であった。イエスは救われる人に条件を付けたらどうか。

人々はますます厳しさを増す社会の中で一人のキリスト者として証の生活をしようと苦闘し、疲れて礼拝に戻ってくる。そこで救いと慰めの福音ではなく、社会問題に関する牧師の個人的信仰などが語られれば、二度と教会の門などくぐらないであろう。「福音」と「信仰」を峻別し、全ての教会が「福音」のみを語ることにならなければ、教勢の長期低落傾向を改めることはできないと考えている。

【速報】

2020年度東京地方壮年連合第12回総会報告

開催：2020年12月5日 10:00am～11:00

会場：各教会からの委任状、代議員申請および議決表の文書集計を基に Zoom 総会

出席者：議長/松田俊介（目白ヶ丘）、副議長/竹下達也（恵泉）、書記/栗本岳尚（市川大野）、会長/坂口昌彦（目白ヶ丘）、役員/志築正治（市川大野）

総会成立の確認：現在会員教会 54 教会、その半数の 27 以上の出席により総会成立。会議出席委員/3 名・委任状/18 教会・代議員数/16 名・議決表 11 教会により、委任状と代議員及び出席委員の合計は 37 名となり総会成立。

議案

1号議案：2019年度東京地方壮年連合活動報告・決算報告 《可決》

賛成：出席議員 3、委任 18、代議員 16、決表承認 11、合計 48、反対：0

2号議案：2020年度活動計画・予算報告および中間報告 《可決》

賛成：出席議員 3、委任 18、代議員 16、決表承認 11、合計 48、反対：0

3号議案：2021年度活動計画・予算計画 《可決》

賛成：出席議員 3、委任 18、代議員 16、決表承認 11、合計 48、反対：0

4号議案：役員の立候補と推薦

議決表による立候補者および推薦者は、現役員継続希望 2 件を除いては無し。

○その他

会長、事務局長、書記、会計、編集、監査、東ブロック委員、西ブロック委員、南委員ブロック、北ブロック委員、神学生奨学金献金推進委員の立候補及び推薦等の募集を引き続き継続する。

決算報告で収入と支出が一致していないこと、2019年度繰越金が、2020年度前期繰越金と一致していないとの指摘があった。決算書収入と支出が一致していないことに問題はない。また、20年度及び21年度の予算案の収支が合っていないとの指摘があった。これに関しては、個人献金の記載漏れおよび実施されない予算で繰越

金は発生しないので削除をした結果収支が合った。

○課 題

11月23日に予定していた総会がコロナ禍で延期となり、年内実行を急いだため36教会に対し書類送付をメール添付としメールアドレス不明の20教会に対しては郵送で送付した。その結果、開封が遅れ返信が遅れた。そのことにより総会開催の準備が遅れ、50の教会への電話による確認となった。平日の教会は不在のため電話不通で確認が遅れた。また、留守番電話で伝言を残してもそれがどうなったか解らない。また、壮年関係者も長期に渡りオンライン礼拝などで教会へは行っておらず書類を見ることができなかった。郵送したものは電話確認時に受理していたことが判明した。今後は不確実なメールに頼らず、確実な郵送による配布を行う必要がある。

* 2020年度 第24回 研修会 *

日 時：コロナウィルスのため期日未定（オンラインも検討中）
何方でも、お誘い合わせの上、ご参加ください！
会 場：大久保バプテスト教会 東京都新宿区新宿 7-26-22
最寄り駅：大江戸線・副都心線 東新宿駅
A2 出口から徒歩3分

東京地方壮年連合の奉仕者募集

できるだけ広く多くの委員による壮年連合の推進が理想的です。
隔月2か月に1回 第2土曜日 10:00~12:00、新宿区の教会をお借りして役員会を開催しています。総会速報のその他の欄の委員が欠員です。正式な手続きを踏んで決定します。交通費支給
お問合せ先：鈴木武史（東京地方壮年連合 選挙管理委員）
メールアドレス：tk-suzuki@jcom.home.ne.jp

また、坂口にもお気軽にお問合せください。080-6552-2555

事務局長を担当されました佐藤 洋二兄には、役員を辞任されました。10年余に亘る長期のご奉仕に感謝致します。

現役員： 会長・会計：坂口昌彦・書記：栗本岳尚・東ブロック委員：志築正治
西ブロック委員：藤田 博・監査 鈴木武史

発行人：東京地方壮年連合会長 坂口 昌彦
編集人：栗本 岳尚